

# Harmoney



SHIGEI MEDICAL RESEARCH HOSPITAL  
重井医学研究所附属病院広報誌 ハーモニー

秋  
No.167  
号

特集

特集 1 ● 地域医療の中核を担う病棟を目指して  
～地域包括ケア病棟 開設から1年～

特集 2 ● リハビリテーションはチーム医療



病院の理念 | 私たちは"真に病院らしい病院"を目指します

病院の基本方針

私たちは生命の尊厳と人権を尊重し、地域の皆様に信頼される病院であるよう努めます。  
私たちは皆様に質の高い医療を提供するために知識・技術の向上に努めます。  
私たちは感性をみがき、感謝の気持ちを大切に、皆様と感動を共有できるよう努めます。

# 地域医療の中核を担う 病棟を目指して

～ 地域包括ケア病棟 開設から1年～

当院の「地域包括ケア病棟」は、今年の9月で丸1年を迎えました。そこで、今回の特集では、「そもそも地域包括ケア病棟ってどんな病棟?」「この1年を振り返って」「今後の目標」という3つのテーマを中心に当院の「地域包括ケア病棟」をご紹介します。

## ● 地域包括ケア病棟ってどんな病棟?

「地域包括ケアシステム」という言葉を耳にしたことはありませんか。

「地域包括ケアシステム」とは、団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らし続けられるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される仕組みで、国が地方自治体を通して現在急速に推進しています。そのシステムの中の医療の分野において基幹的な役割を担うのが「地域包括ケア病棟」。この病棟の主な機能は①急性期病床からの患者の受け入れ、②在宅等にいる患者の受け入れ、③在宅への復帰支援の3つとされています。(図1)



図1 地域包括ケア病棟の主な役割



退院前のカンファレンス

急性期治療が終わっても、すぐに家に帰って普通の生活に戻るのには不安だという方は多くおられると思います。また、急病になった時にどこの病院に運ばれるのか不安という方も多くおられると思いますが、その両方の役割を担うこの病棟はどこの地域においても今後ニーズが高まるということで、非常に注目されています。

そんな中、当院でも、更に地域に求められる病院を目指して昨年春から着々と準備を進め、10月に地域包括ケア病棟38床の稼動を開始しました。

## ● この1年を振り返って

当院の「地域包括ケア病棟」では、岡山大学病院の消化管外科との連携で食道がん術後の患者さんを多く受け入れ、生活指導や嚥下訓練等を中心に在宅復帰支援に力を入れているのがひとつの特徴となっています。その他、在宅復帰のためにリハビリテーションが必要な患者さんを積極的に受け入れています。また、当院では退院した後も安心して生活できるよう、看護師、セラピスト、医療ソーシャルワーカー、管理栄養士など多職種による自

宅訪問やカンファレンスを行いながら在宅復帰を支援しています。

ここで、この1年の取り組みの中で積み上げてきた実績について、いくつかグラフで紹介いたします。図2は当院の入棟患者ルートを示すグラフですが、院内での転棟は22.8%でその後は外部から直接の受け入れ(直入)となっています。直入の内訳を見ると、救急患者さんのこの病棟への直入割合は2.9%と低いものの外来からの受け入れ53.8%、他院からの紹介の中でも施設や近隣クリニックからの紹介が紹介全体の1/4を占めており、地域からの受け入れを積極的に行ってきた結果が数字として表れてきています。また、他院からの転院のうちの4割を岡山大学病院からの紹介が占めています。



多職種での自宅訪問

## ● 今後の目標

立ち上げた当初は、新しい機能を担う病棟ということで試行錯誤を重ねながらの病棟運営ではありましたが、多くの方々に支えられながら1年が経過しました。この1年の様々な経験の中で、実績を積んだ手応えと共にたくさんの課題も見えてきました。今後は、課題を一つひとつクリアしながら、より地域に求められる病棟を目指していきたいと思っています。

近隣の病院、クリニック関係者の皆様、今回の特集でご紹介させていただいた事例以外にも対象となる患者さんは今後どんどん受け入れていきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

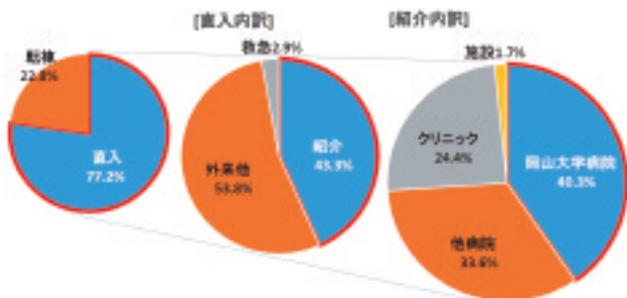


図2 入棟患者ルート

入院日数で見ると、「1-10日」の比較的短い方が最も多くなっており、平均では18.7日という結果ですので、他病院の地域包括ケア病棟と比較すると少し短いかもしれません。(図3)

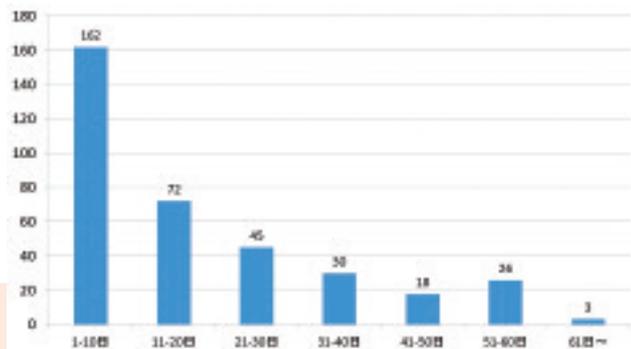


図3 入院日数(人)

当院では、これらのデータ以外にも1年間蓄積したデータを様々な角度から分析しながら、今後のこの病棟のあり方について研究を続けています。





## 地域包括ケア病棟のリハビリテーション — 専従セラピストとしてのかかわり —

「地域包括ケア病棟」では、専従セラピスト1名を配置する必要があります。また、リハビリが必要な患者さんに対しては1日平均2単位(1単位=20分)以上のリハビリ提供も必須の要件となっています。当院でも「地域包括ケア病棟」がスタートする際に専従セラピストとして理学療法士1名を配置し、今まで以上に病棟とリハビリテーション部が密接にかかわることになりました。

### 地域包括ケア病棟の専従セラピストとして

病棟専従セラピストは、病棟の申し送りに参加して多職種との情報共有を行いながら患者さん一人ひとりに合ったリハビリ提供のための計画を作成しています。その計画に基づいて病棟の日常生活リハビリルームや外来棟にあるリハビリテーションセンターで在宅復帰に向けたリハビリを施行させていただいています。リハビリの提供単位数は月によってばらつきがありますが、直近では平均2.8単位程度のリハビリが提供できています。(図4)

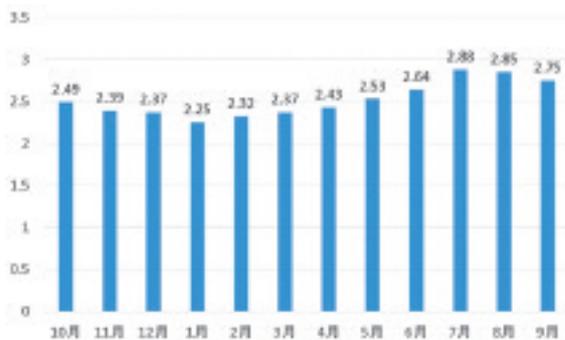


図4 月平均リハビリ提供単位数(単位)

また、提供しているリハビリの内訳を見ると、運動器リハビリ49%、呼吸器リハビリ19%、がん患者リハビリ16%といったあたりが1年間の主な実績となっています。(図5)

リハビリが必要な患者さんにはしっかりとリハビリを提供する、そして出来るだけ早期に在宅復帰してい

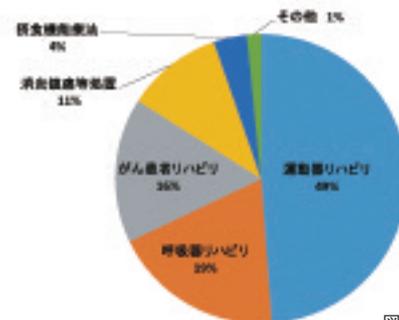


図5 提供リハビリ内訳

ただくことを最大の目標としていますので、今後もその目標に向けて努力していきたいと考えています。その他の業務として患者さんの自宅訪問にも参加していますが、セラピストの目線で家屋内外の段差や配置などの状況を把握し、住宅改修の提案やご自宅での動作・生活指導なども行っています。

### 今年度中に365日リハビリテーションを提供できるよう準備しています

今年度中に地域包括ケア病棟で365日リハビリの提供が可能になるよう現在準備を進めています。入院患者さんの早期の在宅復帰を実現するためには、1日に提供するリハビリ量だけでなく、切れ目ないリハビリの提供も重要になってきます。365日リハビリの提供が可能になれば、切れ目ないリハビリ提供も可能になりますので、1日も早く実現したいと考えています。

私たちは、患者さんの退院後の生活やご家族の方の介護の不安を解消し、安心して在宅生活を送れるようリハビリの視点でしっかりサポートしていきますので、在宅復帰に向けてご不安な点などがあればお気軽にご相談ください。

地域包括ケア病棟  
専従理学療法士 妹尾達也



## 「腎臓リハビリテーション」を知ろう

### 透析患者さんの増加と高齢化

日本における透析患者さんの数は今でも年々増加傾向にあり、約30万人に達しました。30万人ということは、国民の400人に1人が透析を行っている計算になります。更に、透析予備軍と言われる慢性腎臓病の患者さんとなるともっと多く、成人人口の12.9%、実に1,330万人の方が何らかの治療の必要があるとされています。そんな中、透析患者さんの高齢化も進んでおり、現在の透析患者さんの平均年齢は66.5歳、重複した障害を持つ方の割合も高くなっています。

### 生活の質を向上するためのリハビリテーション

「腎臓リハビリテーション」と聞くと、腎臓に直接何かをするようなリハビリを想像してしまいがちですが、腎臓リハビリは腎機能の改善や回復を図る目的で行われるものではありません。主に腎疾患を持つ患者さんの症状の緩和、体力・健康の維持や増進、精神的負担の軽減、生活の質の改善などを目的に行われるもので、その内容は運動療法、食事療法、薬物療法、精神・心理的サポートなど、一般的なりハビ



リと基本的には同様です。なかでも、透析期間の長期化や高齢化によって体力や筋力が低下している透析患者さんにとって、運動療法は特に重要な要素となっています。従来、腎疾患患者さんは運動負荷が腎機能障害進展へ影響を及ぼすことが懸念され、運動制限ないしは安静が必要とされてきました。しかし、近年、運動をしない透析患者さんの生命予後は不良であることが判明し、透析患者さんに対しても積極的に運動することが推奨されるようになりました。さらに、現在では透析の最中に運動療法を行う方法についても開発されてきています。

当院においても、患者さんの人生が充実したものになるよう医師をはじめ看護師、リハビリスタッフなど多職種で構成された専門チームで腎臓リハビリを実施しています。今後もこの分野の最新情報をしっかりと収集し、それぞれの患者さんに有効なりハビリテーション提供に努めてまいります。

### Topics

### 医療機関の皆様へ

#### 「第6回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会」のご案内

来年3月26日・27日、「第6回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会」が地元・岡山（岡山コンベンションセンター）で開催されます。今回の第6回大会のテーマは「チームによる内部機能再生とQOL改善」。本大会の会長は岡山大学病院の榎野博史病院長、当法人理事長の重井文博が副会長を務めますので、当院としても積極的に研究発表を行う予定となっております。医療従事者の方でこの学会に関心がある方は、第6回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会ホームページ(<http://www.med-gakkai.org/jsrr2016/>)をご覧ください、一人でも多くの方にご参加いただければと思いますので、何卒宜しくお願い致します。



1

平成27年度の公開講座が開始

7月25日(土)平成27年度公開講座第1回「幸せに長生きできる生活習慣～頭も身体も適切に使えば機能は再生する～」を開催しました。

この公開講座は、来年の2月まで毎月1回(全8回)開講します。8回の講座のうち、できるだけ多くの講座を聞かれると、とてもまとまった医学情報になります。たくさんの方が聴講にいられて、私たちと一緒に考えてみられることを職員一同楽しみにしていますので、ご参加のほどよろしくお願いいたします。



2

夏祭り2015を開催

8月4日(火)の夕方から当院の正面玄関前で毎年恒例の夏祭りを開催しました。

今年の夏祭りにはたくさんの地域の皆様にお越しいただきました。ゲームあり、焼きそばや綿菓子、ポップコーンなどの屋台あり、そして最後に打ち上げ花火ありと皆さん真夏の夜のひと時、楽しんでいただけたようです。これからも私達職員と地域の皆様と交流ができるこのような機会を積極的に設けていきますので、皆様のご参加をお待ちしております。



当院の看護部は、平成24年度から看護職のワークライフバランスの推進に取り組んでいます。このたび公益社団法人 日本看護協会より、この成果が評価され、「看護職のワークライフバランス推進カンゴザウルス賞」を受賞しました。ワークライフバランスとは「仕事と生活の調和」と訳され、仕事にやりがいを持ちながら、家庭や地域生活なども充実させることを指します。

これからも、より働きやすい病院を目指し、業務の改善に取り組んでいきます。



3

当院のワークライフバランスの推進が評価されました

9月5日(土)川崎医科大附属病院で開催された、患者さんの容体急変時などを想定したチーム医療の競技会 KAWASAKI CUP EX 2015で、当院から出場した「チームてんとう虫(転倒を無視しちゃダメよ!の意味が込められています)」が特別賞を獲得しました。

わがチームは、真鍋副院長をリーダーに看護師、臨床工学技士の精鋭メンバーで競技に挑みました。

競技では、チームワークの良さが評価され、昨年の最優秀賞に続いて特別賞を受賞しました。日ごろのチーム医療の成果が、現れたようです。これからも引き続きチーム医療を推進していきます。



4

チーム医療の技量を争う競技会で特別賞を受賞

## 小児療育センター特別企画 「夏の自然・科学実験教室第2弾」

小児療育部より

小児療育センターでは、日ごろから「トンボ先生」こと重井博前理事長の精神である自然を大切にすることを引き継ぎ、「自然療育」をテーマに活動しています。今回はその一環として、7月28日(火)重井医学研究所の松山博士による自然・科学実験教室、「玉ねぎからDNAをとってみよう!第二弾」を開催しました。この自然・科学実験教室は昨年度から始まり、今年は第2回目です!未来の科学博士の卵達が、期待に胸を膨らませ附属病院小児療育センターに集まりました。参加者は年中児～小学校高学年の男女合わせて9人でした。松山博士の説明に食い入るように聞き入っている子どもたちの目も真剣そのものでした。玉ねぎを切る、すり潰す、エタノールを決められた線まで入れる、様々な工程を一生懸命、向上心を持ち取りかかる姿。不器用で上手く行かない作業。それでも皆DNAという未知の世界を求め、熱心に作業を続けていました。誰一人途中で投げだすことなく、玉ねぎが目にしみて、涙を流しながらも懸命に玉ねぎをすり潰す作業を行う真剣な眼差しは、輝きにみち溢れていました。材料が足りない際は、子どもたちが互いに声を掛け、協力し合う姿も見られました。そして、DNAが現れた瞬間「わ～～」感動の声が部屋中に響き渡りました。実験終了後、松山博士から表彰状を受け取り「凄いね」と褒められた時の子どもの顔は、一人ひとりどこか誇らしげで、言葉にならない程の喜びで輝いていました。

参加者の一人の少年は、終了后感想文で「お家に帰って次の日にホウレン草で実験をしてみました。実験が大成功して嬉しかったです。また、来年も実験教室に行きたいなと思います。」と書いてくれました。この、自然・科学実験教室をきっかけとし、子どもたちの世界が広がり、探究心を抱き、自ら行動を起こしている姿に感動を覚えます。



今後も、このような企画や療育を通じ、小児療育センターが子どもたちに夢を与え、その瞳に情熱の輝きを灯らせるよう、取り組んでいきます。

## 公開講座

### すこやかに生きるために

Open Lecture Schedule

入場無料／申込不要  
駐車場有／無料ミニ健診

2015

10/24 土

Lecture 1

13:30-15:00

“最先端の研究の  
世界へようこそ!  
～遺伝子で腎臓の働きを回復する～”

講師 | 重井医学研究所  
分子遺伝部門 室長 松山 誠

11/28 土

Lecture 2

13:30-15:00

“痛くもかゆくもない  
生活習慣病  
～でも気かけるとこんなにいいことが!～”

講師 | 重井医学研究所附属病院  
内科部長 大森一慶

12/19 土

Lecture 3

13:30-15:00

“楽しく食べて楽しい人生  
～食べることで機能再生しよう～”

講師 | 重井医学研究所附属病院  
内科部長 荒木俊江

Information 会場 & お問い合わせ

重井医学研究所附属病院 重井医学研究所 講義室  
〒701-0202 岡山市南区山田2117  
TEL 086-282-5311 / FAX 086-282-5345

# 予 定 表 外 来 診 察

Outpatient care schedule

- 受付時間** 8:30～12:00 (再診の方は、再来受付機にて午前8時より受け付けています)  
13:30～17:00
- 診察時間** 9:00～12:00  
14:00～17:00 予約専門外来は13:30から
- 休診日** 木曜・日曜・祝日  
(夜間や休日の急病の場合は、あらかじめ電話で対応可能かどうかのお問い合わせをお願いいたします)

		月	火	水	木	金	土
内科	午前	糖尿病・肝臓 (生活習慣病)	真鍋 康二 (総・肝・糖) 大森 一慶 (総・糖)	大森 一慶 (総・糖・腎)	荒木 俊江 (総・糖) 池田 弘 (肝)	休 診	真鍋 康二 (総・肝・糖) 荒木 俊江 (総・糖)
		腎臓	福島 正樹 (腎)(紹介・初診のみ)	—	福島 正樹 (腎)		福島 正樹 (腎) 福島 正樹 (腎)
	消化器	藤本さおり (総・消)	西山 仁樹 (消)	岡 優子 (総・消)	岡 優子 (総・消) 藤本／岡 (総・消)		
	★総:総合内科 腎:腎臓 肝:肝臓 糖:糖尿病 消:消化器 ★健診は、西山仁樹(月・火・水・金・土)が担当しています						
午後	一般外来	交代医師	交代医師	交代医師	休 診	交代医師	交代医師
	専門外来 (予約)	(肝臓・ 生活習慣病) 池田 弘	(糖尿病) 真鍋 康二 荒木 俊江	—		—	—
名誉院長外来	午前	—	腎臓・内科一般 瀧 正史	—	休 診	—	—
小児科	午前	瀧 正史 虫明 亨祐	虫明 亨祐 今村 昌司	虫明 亨祐 今村 昌司	休 診	虫明 亨祐 川田 珠理	瀧 正史 虫明 亨祐
	午後	交代診療 予防接種	交代診療 予防接種	交代診療 予防接種		交代診療 予防接種	
小児療育	午前 完全予約制	今村 昌司	川田 珠理	川田 珠理		今村 昌司	今村 昌司
	午後 完全予約制	今村 昌司	川田 珠理	赤池 / 川田		今村 / 川田	今村 昌司
★小児療育は初診の方は完全予約制(火曜・水曜午前中)です。予め電話での予約をお願いします。 他の曜日に来院されてもお帰りいただく場合がございます。ご了承下さいますようお願いいたします。							
外科	午前	櫻間 教文	平松 聡	平松 聡	休 診	平松 聡	平松 聡
ダイアライ シスアクセス 専門外来	午前	櫻間 教文	櫻間 教文	櫻間 教文		櫻間 教文	櫻間 教文
★ダイアライシスアクセス専門外来は、完全予約制です。予め電話での予約をお願いします。 ★時間外でも可能な限り対応いたします。電話でお問い合わせ下さい。							
泌尿器科 (予約)	午後	—	—	—	休 診	岡山大学	—
皮膚科	午後	—	太田 知子	太田 知子	休 診	—	—
眼科	午後	第4月曜日 岡山大学	—	—	休 診	—	—

## 編 集 部 よ り

平素より「重井医学研究所附属病院広報誌 ハーモニー」をご愛読いただき、ありがとうございます。新病院の完成を機に前号から紙面のサイズを大きくして、皆様にお伝えする内容の充実を図りました。また、表紙のデザインも一新し、若々しさを強調しました。これからも読みやすい紙面づくりに努めて参りますので、引き続きご愛読よろしくお願いたします。

## I n f o r m a t i o n



重井医学研究所附属病院  
〒701-0202 岡山市南区山田 2117  
TEL 086-282-5311 / FAX 086-282-5345  
http://www.shigei.or.jp/smrh/



### 関 連 施 設

しげい病院  
重井医学研究所附属病院  
重井医学研究所  
岡山しげい訪問看護ステーション  
岡山しげい居宅介護支援事業所

倉敷しげい訪問看護ステーション  
倉敷しげい居宅介護支援事業所  
重井薬用植物園  
倉敷昆虫館  
健康増進施設 はあもにい倉敷